

**円居**  
まよる

令和5年9月7日(木)  
備前市立備前中学校  
校長 藤森 卓麻  
0869-64-3365

# 備前中学校に校則がなかったらどうする!?

## 生徒会の挑戦

「校則がなかったらどうする?」二学期の始業式で、生徒指導担当の教員が全校生徒に投げかけた言葉です。

生徒自身が学校と一緒に、自分たちの学校のきまりを見直すという流れが全国的に広がってしばらくたちます。備前中でも昨年の靴下に続き、一学期には登下校中の服装について考えました。実際に二学期がスタートして体操服等で登下校をしている姿が見られます。さらに二学期には、頭髮についても検討を進めていく予定です。

ここで子どもたちに大事にしてほしいことは、校則を変えること自体が目的ではないということです。自分たちで自分たちのことを考える、これからの備前中について考える、これが目的です。

自慢の備前中の子どもたちは、いろいろなことを素直に受け止めて前向きに取り組める子どもたちです。これからはその素直さに加えて、正解

がないことに直面したとき、最も適した答えを導き出せるかどうかがとても大切になってきます。これから子どもたちが生きていく世界に必要なのは、答えを覚える力ではなく、自ら課題を見つけ、それを解決していく力です。

ですから、ツープロックがいいとか悪いとか、この髪型はどうとか、そんな単純な議論をしてほしくはありません。場合によっては、備前中のきまりはどうあるべきか、というところからの話し合いが必要になってくるはずです。初めは意識の差もあるかもしれませんが、生徒が自ら考え

## ペルーの学校

以前勤務していた南米ペルーの首都にあるリマ日本人学校には、小学生と中学生、合わせて四十人ほどの児童生徒が在籍していた。多くは親の仕事の都合で日本からやってきた子どもだったが、ペルーで生まれ育ち、日本語よりもスペイン語が得意な子も中にはいた。日本の教科書を使って、日本と同じカリキュラムで授業は行われる。生徒の多くは日本に帰国し進学していく。時間割も日本とほぼ同じ。運動会や文化祭など学校行事も同じように行われる。ペルーにある「日本の学校」だ。学校に制服はなく、特に頭髮などの校則も定められていなかった。安全上の理由で、チャイムも一切鳴らない。やや特殊な事情がある学校ではある。もちろん、ペルーにも普通に学校はある。リマは人口約一千万人の大都会だ。(ペルーといえばアンデス山脈をバックに民族衣装を着た人がリヤマと一緒に：なんて景色を想像した人はいないか?間違いないが正しくもない。)私立、公立、インターナショナルスクールや日系の学校もいくつかある。どの学校にも制服がある。スカートの長さを変えている生徒は見た覚えがない。頭髮などの校則もおそらくない。様々な人種・民族が混じっている国なので、ぱっと見ただけでいろいろだから「おそらく」頭髮に関する校則はない。何度か訪問した日系の学校では、おやつを持ってきて食べていた。給食がないので何を食べてもいいみたいだ。ちなみに、クリスマスの前から夏休みに入る。(＊季節が逆) ちなみに、夏休みが終わるのは新年度が始まる3月に入っただ。つまり夏休みは約三か月もある。ちなみに、宿題は：ない。おまけ「備前中に宿題がなかったら：」どうする?

るといっても、我々大人が作り上げた「ものさし」に、無意識のうちに縛られることもあるかもしれません。校則というのは、本来みんなが安心して学校生活を送るためのものです。このきまりがあるおかげでみんなが快適な学校生活を送ることができるといってもいいかもしれません。備前中がどうありたい、ではなく、備前中がどうありたい、という視点を持ちながら、思い切って自分の考えを、自分の言葉で表現してほしいと思います。

「備前中に校則がなかったら：」始業式での問いかけに戻ります。想像力を発揮するときです。社会へ目をやる。「交通ルール(道路交通法)」がないとどうなるか。また、そもそも「きまり」として必要なものとうでないものがあるかもしれません。電車やバスに設けられている「優先席」。国によっては優先席を設けていない国もあります。優先席は必要か、優先席がなかったらどうする：。子どもたちはどのように考えるでしょうか。

## 制服検討委員会

未来の備前中、まだ見ぬ後輩たちにバトンを託すべく、新しい制服についても考えています。8月28日に業者を交えて制服検討委員会が開かれました。どんなタイプ(スーツ・ブレザー)にするか、夏服はどうするか、ここで話し合われたことについて、今度はクラスで意見を集める予定です。



話し合いのときイメージできるように、現在、職員室前の廊下にサンプルを展示しています。

「こちらに進んでいます」